随筆

2006年世界医師会参加

豊見城中央病院
理事長　比嘉　國郎

先ず最初にお断りしますが、世界医師会議当日、体調をくずし出席出来ませんでした。報告致し兼ねますので日医ニュースをご覧下さい。

10月9日出発成田国際空港17:00集合予定でしたので、吾々夫婦は香港で待ち合わせる計画を進めていましたが近い筈の運賃がかなり高い事が分かり少々逆コースになるが、羽田経由で成田に向かう事にしました。18:45発ANA機で一路香港へ4時間30分の飛行時間です。香港23:50発南アルフリカ航空機に乗り、目的地ヨハネスブルグへ向かう飛行時間13時間30分の長旅、時差7時間ですから、目的地へ午前7時全員元気で到着、大型バスに乗り込みヨハネスブルグ市内及び首都プレトリアを見学して開催地ピラネスバーグへ、車で2時間30分のロングドライブでした。メインストリートは完全舗装で日本と同じ左側通行でした。ヨハネスブルグ周辺は日本同様車で渋滞でした。

ドイツ車が目に付きました。無論、日本車も走っています。南アフリカはヨーロッパと変わらず大都会です。アパルトヘイト政策廃止後、ヨハネスブルグは治安が悪く、白人は全員が逃げ出し、ゴーストタウン化して居まして、吾々も車の中からの見学でした。警察も手がつけられない状態の様です。季節のジャガランダの花が満開で吾々の心を和ませてくれました。その花を観る観光ツアーもあり、日本からもかなりの人が参加していると聞きました。現地時間10日の夜は恒例の日本医師会会長招宴に参加致し、唐澤会長が当然ご参加頂けると思って楽しみにしたが、のっぴきならぬ公務で不参加と会場で初めて宝住・岩沙両副会長から話が伝わりました。遠い為か参加者は例年になく少なく淋しい思いもありましたが、少ないなりにアットホームな雰囲気で楽しい夕べの一時を過ごす事が出来ました。そして10月11日オプショナルツアー参加、吾々のグループはたった5人の仲間でアフリカ最南端のケープタウンへ出発、飛行機で2時間要しました。有名なテーブルマウンテンを見学ロープウエイで登りますが標高1,080余も有るそうです。山は如何にも人工的に造られた山という印象が強く、石を幾重にも積み上げられ今にも崩れ落ちそうな岩盤です。頑強との事、テーブルマウテンから見る街は絶景で大変美しい大都会です。そして、海の前方に小さな島が見えました。伺いましたら後に大統領になったマンデラ氏がアパルト解放運動中に逮捕され18年間も幽閉されていたロベン島ですと説明してくれました。10年前にアパルトヘイト政策が開放され、その後社会復帰と大統領選で当選された偉人であります。現在は隠居中ですが85歳で健在との事です。

ロベン島は現在は日帰り観光地として有名で、博物館があって当時の面影を残している様であります。ケープタウンで一泊し、翌日はケープ半島見学、先ずホルダーズビーチで無数のペンギンを見る。至る所に穴を掘りそこに卵を産み子育てに励む様です。餌付けではなく、保護地域として設定し、自然にペンギンが住み着く様になっています。沿岸は餌が多く集まってくる一因でもあるという事です。昼食をすませ、喜望峯自然保護区へ向かう入園時許可が必要で、入園料を支払ったかどうかは不明。その中に喜望峯とケープポイントがあります。保護区には多くの植物や鳥類がいます。吾々はダチョウやバブーン（ヒヒ）等を観察する事が出来ました。最初にケープポイントへケーブルカーに乗って頂上へ、突端に灯台がありますが霧が深く見えない為現在では使用されず、下の方へ移動してその機能を発揮しているとの事でした。ケープポイント展望台は、大西洋と印度洋の分岐点で海流がぶつかって渦を巻く様子も見られるとの事でしたが、残念ながら吾々は見る事が出来ませんでした。又、海流のぶつかりで

ジャガランダの花をバックにして

霧が発生しやすく、瞬時に霧に包まれ多くの観光客は綺麗な景色を観る事が出来ませんが、幸に吾々は晴天の下でケープポイントからの大西洋と印度洋の合流域を観る事が出来、ラッキーでした。私自身、ケープポイントが喜望峯と思って居ましたが、直ぐ近くのそれより低い突端が喜望峯と説明を受け、ちょっと腑に落ちませんでした。なるほど現場に行きましたらcape of good hope（喜望峯）の看板がたっていました。周辺は石ころで一杯、持ち帰る事は禁止されていると言われ遠慮しました。海流のぶつかり場所だけあって風が強く荒波でした。すばらしいケープタウンの思い出を脳裏に一杯つめてヨハネスブルグへ戻る。10月13（金）夕方よりアフリカ医師会主催のゲームドライブへ参加。野生の猛獣初め多くの動物を見学する事が出来ました。猛獣はライオンが主でしたが3～400m程離れた所から見るので小さく、恐怖心はありませんでした。幸い二箇所で見る事が出来、子連れのライオンも見ました。ライオンの群れを見る事が出来ない観光客も多いとの事、吾々はラッキーという事になります。そしていよいよ10月14日（土）WMA主催の晩餐会でだし物は全くなく、静かな宴会でした。

10月15日はビクトリアフォールを見学の為ジンバブエへ飛び、隣国のボツワナへ移動。チョベ国立公園宿舎に一泊、夕方チョベ川を遊覧、川辺に象が6頭水飲みに来ていて目の前でしばらく彼等のしぐさを見学した。大きなワニも見ました。又、水牛の大群も見ました。その川はビクトリアフォールの支流という事で、川というより湖の感を私はいだきました。静かで水が流れている様には見えませんでした。そして翌早朝サファリードライブ。幸運にもライオンが3頭川辺に居ました。比較的近くで見る事が出来ました。満腹していたのでしょうか、のんびりと横たわっていました。圧巻は象です。吾々の車の直ぐ前を二頭が通り過ぎました。正直言ってちょっと怖かったです。運転手があの象は興奮して居ませんので心配いりませんと説明してくれてホットしました。余りの大きさに圧倒されました。2時間ばかりサファリードライブし、多くの野生の動物を見学出来満足しました。

10月16日最後の目的地ビクトリアフォールを見学の為ジンバブエへ戻る。ビクトリアフォールズに一泊、滝の発見者であるリビングスン氏の銅像を見てビクトリアの滝を見学、4月よ

ピラネスバーグナショナルパーク入り口

り渇水期で全く雨が降らず滝の半分はから滝、半分は轟々と水しぶきをあげて流れていまして、三大滝の一つだけあってかなり水量がありました。2キロばかり歩きましたので大変くたびれました。しかし、待望の滝も見学できましたので疲れは吹っ飛んでしまいました。心を満たしヨハネスブルグへ戻り、当日香港経由で帰るためにチェックインカウンターへ行きましたら、満席で乗れません。吾々のガイドは困り果て、詰め寄るもどうにもならない。責任者にも接渉したがやはり満杯。つまり、オーバーブッキングしているのです。

よくある話の様である。私は翌日10月19日は病院の地域医療支援病院の祝賀会があり、大変困りました。どうしようもない。致し方なく国際電話をいれて飛行機の都合で19日には帰れないのでよろしくと病院へ伝えました。ヨハネスブルグのホテルに一泊する事になり、航空会社のお世話で一流ホテルに宿泊出来ました。疲れを癒す意味では良かったと思っています。

翌19日は確実に乗れるようにガイドは朝から空港へ行って席の確保に懸命の努力をしてくれまして、1日遅れの10月20日夕刻無事帰沖してほっとした所です。次回の世界医師会総会はデンマークとの事です。

原稿募集！

随筆のコーナー（2,500字以内）

随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。